踏 み 跡 ＜ My mountains ＞

上越	蓬峠から谷川岳・中ゴー尾根	No.048

確かでない記憶の糸を手繰り寄せてみると・・・

当初計画では、「土合から白毛門山を経て蓬峠へ、そして翌日は谷川岳を経て下山」 というコースだったように思う。

「魔の山 谷川岳」 などと不名誉な呼称を持っていることがどうも好きではない。

今回の山行は、一ヵ月後に迫った南アルプス縦走の前奏曲で、

恩田、井口、私の三人がお互いの足を知ろうという目的もあった。

さらにここに加藤も加わり、まるでクラス会の様相でもあった。

昭和 40 年 6 月 26 日

上野23時55分発の夜行列車で出発。

昭和 40 年 6 月 27 日

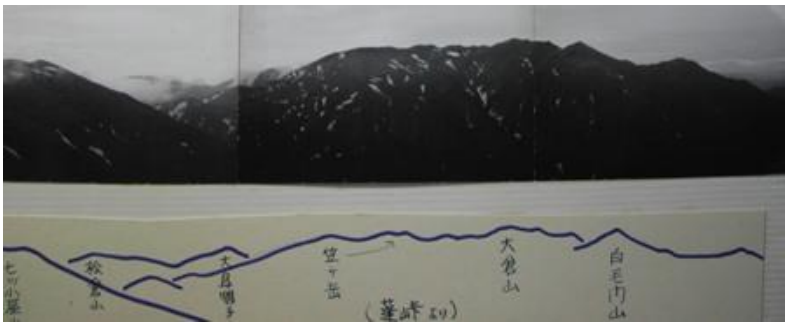
土合着は4時52分、天気は雨。空模様を見ながらの朝食。雨は止みそうにないので白毛門山行きを中止し、旧道を蓬峠へ登ることになり、せっかくなので一の倉沢の見学をして行こうということになった。

7時30分一の倉沢出合い。キスリングをデポして「魔の」といわれる沢に入ってみることになった。（左写真）エボシ岩直下あたりまで雪渓を登って、二度目の朝食とグリセードの稽古。9時半に出発。

幽の沢、芝倉沢と谷川岳東壁の黒々とした岩肌を見上げながら旧道を登って、一面の草原の中に立つ蓬ヒュッテに着いたのは13時15分。

恩田はここで別れて土樽へ下山。今日は残りメンバーで蓬ヒュッテに泊ることになった。そして明日は井口と小林は中ゴー尾根から谷川温泉へ縦走、もう一日休みのある加藤は平標山まで縦走とそれぞれ計画変更。

小さな鐘の下がったヒュッテの中へ入り。雨でぬれたものを乾かそうと思ったら、ストーブに火をつけてくれない。夕方になると湯檜曽川に立ち込めていたガスが消えて、思いがけない大きさで白毛門、笠、朝日と連なる稜線が目の前に広がってきた。朝日岳山頂付近の草原のような平坦なところまでよく見える。さらに、対岸の谷川岳東壁の岩場が水墨画のような姿を見せ、夕暮れのひとときの小屋の周りの散歩は抜群の素晴らしさだった。



16時15分から夕食。

踏　み　跡　＜　My　mountains　＞

昭和 40 年 6 月 28 日

5時起床、朝食をとり7時半に出発。熊笹の中の一本道を気持ちよく歩き、7時10分武能岳（1759.6m）。茂倉岳（1977.9m）8時30分、ここまでは武能岳と同じような穏やかな稜線。30分休んで景色を堪能。一の倉岳（1974.2m）9時25分。このあたりから左手の谷は深く垂直に切れ落ち、剣のような岩場があんぐりと口をあけるようになってきた。それに対して右側は相変わらず熊笹の茂る柔和な緑の斜面。前方に

谷川岳の双耳の頂がこぶのように見える。

オキの耳（1977m）10時15分。昼食、写真撮影、風景鑑賞。

西黒尾根、天神峠、谷川温泉、さらに一の倉沢、マチガ沢からと多くのルートからのコースが合する谷川岳山頂（トマの耳：1969.2m）はにぎやかだ。ヘルメットをかぶってザイルを巻いているパーティからきゃっきゃっと騒いでいる女性ハイカー達まで色々な人がいる。

11時30分に頂上を出発。肩の小屋を通って西へ、正面にオジカ沢の頭のトンガリを見ながらの下り。

中ゴー尾根分岐12時、キスリングをデポしてオジカ沢の頭（1890m）を往復。

平標山を目指す加藤とはここで別れる。我々二人（井口・小林）は、14時15分出発。中ゴー尾根を谷川温泉へ下る。

尻を摺るような急な下りの末、沢の流れに出て、二俣に15時20分着。さらに沢沿いに下り谷川温泉に17時に到着、旅館は数軒しかなく、宿の周囲も閑散として何の彩りもない。あるのは梢を鳴らす夕暮れの風と、一日として消えることのない谷川のせせらぎだけ。いや、これだけの彩で既に充分すぎるぐらい充分である。バスを待つ間に顔や手を洗い、軽い食事。

バス（20円）で水上駅18時12分着。駅にはもう観光客はいない。

電車も空いていて、ゆったりと帰ることができたが、当初の狙いだった「白毛門山登山」と「南アルプス縦走前の準備」はいずれも雨のために果たせずに終った。

以上

（修正・更新：2023年10月）